

はじめに

《～このテキストの使い方～》

社労士受験の学習範囲は非常に広く、学習項目も多岐にわたるため、ごく一部の資格試験慣れした方や、いわゆる地頭が良い方以外は、基本事項を記憶するだけでも非常に苦勞するケースが大半です。テキストに書かれている文面をただ単に読んで、蛍光ペンでマーカーを引くだけでは、なかなか記憶には残りにくいですよ。

そこで、私は、学習過程において、**テキストに自身で書き込み**をしていき、**サブノートを兼ねるテキストの使用**方法を推奨しています。

具体的には、講義で説明があった部分をマーカーやアンダーラインを引いておくだけでなく、**ポイントをメモ**したり、**複雑な文章(条文・通達など)**は**自分の言葉で端的にメモ**しなおしたり、**過去問で出題された論点を短く端的にメモ**したり、自身が問題演習で**いつも間違える問題の論点を、自身で考えながら書き込んでいく**、このような作業を、少しずつ何度も繰り返していく使い方です。

こうすることにより、**自身の弱点補強**のために最適な、**世界に一つだけであり、世界で一番自分が使いやすいテキスト**が出来上がります。

一見とても手間と時間のかかる作業に思えますが、苦手とするポイントは十人十色、人それぞれです。既に理解でき記憶できた項目を重複して学習していると学習時間のロスにもつながります。**自分が苦手な部分、弱点を明確**にしていきましょう。

また、このように一つ一つの項目を考えながら自身で書き込みをすることにより、**理解が深まり記憶の定着にも非常に役立つ**でしょう。1回読んだだけではもちろん記憶には残りませんが、メモを残すなどして何度も繰り返し学習をしていると、問題を解いた際に、テキストのどのあたりに記載されていた項目であるかイメージができるようになります。

さらに、最近の出題傾向では、条文や通達の文章そのものの正誤判断を問う知識系問題だけでなく、条文や通達の内容を**自身で考えながら応用して解答する必要がある事例系問題**の出題も散見されますが、このような**自身**

で考えて解く必要がある問題への対応力も養えます。

そして、試験直前の総仕上げのためのテキスト読み（学習した知識の最終確認）の際にも、自身の学習過程であるメモ書き、書き込みがあるテキストと、何も書かれていないテキストとでは、どちらが**短時間で効率的に、効果的に知識の再確認ができる**かは、言うまでもなく明らかですよ。

《～このテキストの特徴～》

各項目ごとに**Hop、Step、Jump**と基本から応用までを**段階的に学習**できるように構成されている学習しやすいテキストとなります。

また、上述でご紹介した学習過程での書き込みやメモをするために、各ページの下上左右に**適度な余白**をあけています。

さらに、私は、社労士受験において**完璧なテキストは存在しない**と考えています。出題の可能性の低い基本事項からかけ離れた細かな内容をテキストに網羅すれば、情報量的には完璧なテキストに近づくでしょう。しかし、テキストが分厚くなり、そのテキストを使用して学習する受験生の負荷が高まるだけです。

逆に、テキストを使用して学習する受験生の負荷を減らすために、簡略化しすぎた薄いテキストでは、合格するための情報量が不足してしまいます。

そこで、このテキストでは、**出題の可能性が高く、私たちが社労士受験で得点につながりやすい部分、そして合格するために必要な情報量**という観点でバランスを考えて情報を精査して編集してあります。

むろん、このテキストも完璧なテキストではありません。みなさんの学習過程でのメモや書き込み、そして弱点補強をするための**アイテム**として、みなさんが作り上げた学習の軌跡があって、初めて私の理想とする**完璧なテキスト**に近づけるものと考えています。このテキストを完璧なものに近づけるためには、みなさんの協力が必要不可欠です。このテキストがボロボロになるまで繰り返し使用して合格を勝ち取ってください。

受験対策屋さん(ˆoˆ)/
社会保険労務士 小川 泰弘